

## 大手前高等学校（大坂城跡）

| 年号   | 西暦   | 事 項                        |
|------|------|----------------------------|
| 天正 8 | 1580 | 石山合戦終結、石山本願寺焼失             |
| 天正10 | 1582 | 本能寺の変、信長が自刃                |
|      |      | 山崎の合戦、秀吉が明智光秀を破る           |
| 天正11 | 1583 | 賤ヶ岳の戦い、秀吉が柴田勝家を破る          |
|      |      | 秀吉、摂津を占有し大坂城本丸築城を開始        |
| 天正12 | 1584 | 小牧長久手の戦い、秀吉、徳川家康と和す        |
| 天正13 | 1585 | 大坂城本丸完成                    |
|      |      | 秀吉、関白に任ぜられる                |
| 天正14 | 1586 | 大坂城二の丸築造開始                 |
|      |      | 秀吉、太政大臣に任ぜられ、豊臣の姓を賜る       |
| 天正16 | 1588 | 大坂城二の丸完成                   |
|      |      | 刀狩令発令                      |
| 天正17 | 1589 | 小田原の北条氏征討                  |
| 天正18 | 1590 | 小田原の北条氏降伏、秀吉天下統一成る         |
|      |      | 徳川家康、関東に移封                 |
| 天正19 | 1591 | 千利休、自刃                     |
|      |      | 朝鮮征伐発令                     |
|      |      | 秀吉、関白職を甥の秀次に譲り太閤と号する       |
| 文禄元  | 1592 | 秀吉、朝鮮出兵（文禄の役）              |
| 文禄 3 | 1594 | 大坂城惣構築造開始                  |
| 文禄 4 | 1595 | 秀吉、秀次の関白職を剥奪し、秀次自刃         |
| 慶長元  | 1596 | 慶長の大地震                     |
| 慶長 2 | 1597 | 朝鮮再出兵（慶長の役）                |
| 慶長 3 | 1598 | 大坂城三の丸築城開始                 |
|      |      | 秀吉没                        |
| 慶長 5 | 1600 | 関ヶ原の戦い                     |
| 慶長 8 | 1603 | 家康、征夷大將軍に任ぜられ、江戸幕府を開く      |
| 慶長10 | 1605 | 徳川秀忠、征夷大將軍に任ぜられる           |
| 慶長19 | 1614 | 方広寺鐘名事件                    |
|      |      | 大坂冬の陣                      |
| 慶長20 | 1615 | 大坂夏の陣                      |
|      |      | 秀頼、淀殿自刃、豊臣氏滅亡              |
|      |      | 松平忠明、大坂城主となり大坂城下の復興と整備にあたる |
| 元和 5 | 1619 | 江戸幕府、大坂を直轄地し、大坂城代・大坂町奉行をおく |
| 元和 6 | 1620 | 大坂城再建工事開始                  |
| 寛永 6 | 1629 | 大坂城再建工事終了                  |
| 寛文 5 | 1665 | 大坂城天守閣に落雷し全焼、以後昭和6年まで天守閣なし |
| 明治元  | 1868 | 戊辰戦争により、大坂城中ほぼ焼失           |
|      |      | 大坂城跡は明治政府の軍用地となる           |
| 昭和 6 | 1931 | 大阪市による大坂城天守閣再建             |
| 平成 9 | 1997 | 大坂城天守閣、平成の大修理完成            |

### 大坂城関連年表

財団法人大阪府文化財センター「大坂城址Ⅲ」

2006年3月から引用

## 大坂城から大阪城へ

大坂城跡は、大阪市の中央を南北に細長くのびる上町台地の最北端にあります。標高は約 25 mを測り、大阪市内の最高所にあたります。

その範囲は、豊臣氏大坂城の惣構の範囲として、北は大川、南は空堀、西は東横堀川、東は旧猫間川までということになります。

大坂の町は、明応 5（1496）年本願寺の第 8 世宗主蓮如が、この上町台地の北端の地に「大坂御坊」を建立したことに始まります。蓮如は「御文章」の中で御坊が建立された地は「摂津東成郡生玉庄内大坂」と記しています。ここに始めて「大坂」の名が文献に登場します。大坂に本願寺が移されると一向宗の本拠地として強大な勢力を保持しますが、織田信長との石山合戦の末、第 11 世宗主顕如は大坂明け渡しの要求に応じます。顕如が退去してまもなく本願寺は焼失します。

秀吉は、天正 11（1583）年に大坂城築城に着手します。天正 13（1585）年にわずか 2 年足らずで、金箔瓦で彩られた天守閣を備えた本丸が完成します。「フロイス日本史」には「とりわけ天守閣は遠くから望見できる建物で華麗さと広壮さを（誇）示していた。」と紹介されています。その翌年には本丸を囲む二の丸の工事に着手し、文禄 3（1594）年には惣構の建設も命じます。これによって、広大な「大阪城下町」が完成したといえます。秀吉は晩年の慶長 3（1598）年、さらに強固な城を目指して三の丸築造工事を開始します。

しかし秀吉の没後、大坂冬の陣、大坂夏の陣により「三国無双」といわれた大坂城は落城し、豊臣氏は滅亡します。徳川氏は元和 6（1620）年から本丸と二の丸を復興し、徳川氏大坂城が完成しますが、寛文 5（1665）年の落雷により天守閣は焼失してしまいます。

昭和3（1928）年に当時の大阪市長は、天守再建を含む「大阪城公園整備事業」を提案したところ、昭和5（1930）年市民の募金によって天守閣の再建が始まり、翌年完成します。この再興大阪城は豊臣氏大坂城をモデルにしています。



ドーンセンターの西側に移築された豊臣時代の石垣  
ドーンセンター建設時に実施した発掘調査で発見された石垣を移築し、展示しています。

### 地下に眠る豊臣氏大坂城

昭和34（1959）年に大阪市、大阪市教育委員会などによって結成された大阪城総合学術調査団は、歴史学、建築学、土木工学、地質学など多彩な分野の研究者によって組織され、石垣の刻印調査など種々の調査を行っています。本丸地点においては、ボーリング調査を実施しましたところ、地下約7メートルで石にあたりました。その地点の発掘調査を実施したところ、古い石垣が検出されました。現在地上において見られる石垣の刻印をすべて調査した結果、徳川家康の配下の大名の刻印

に限られ、徳川氏大坂城のものであることが判明していましたが、地下7メートルから発見された石垣は、豊臣氏大坂城のものか石山本願寺のものか断定することができず、「謎の石垣」として大変な話題を呼びました。

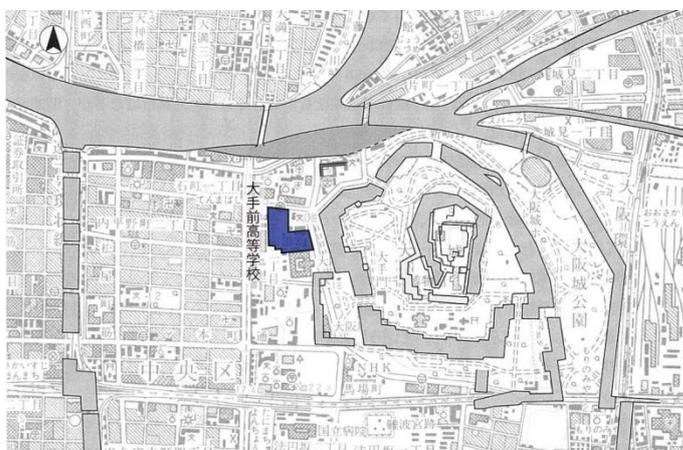
その後、徳川幕府の大工頭であった中井家に伝わる「豊臣時代大坂城本丸図」と広島市立中央図書館所蔵「諸国古城之図」の対比検討によって、地下7メートルに発見された石垣は、豊臣氏大坂城本丸の一部であることが判明しました。豊臣氏大坂城の石垣は、徳川氏大坂城に比べて石も小ぶりで野面積み（のづらづみ）工法と呼ばれる城郭石垣の初期工法

で構築されています。

すなわち家康は豊臣氏大坂城の上に、大量の盛土をして、その上に城を築いたこととなります。家康の大量の盛土のおかげで、豊臣時代の「大坂城と城下町」が良好な状態で保存されたともいえます。

### 学校を掘る

大手前高校内の発掘調査は、昭和61年と63年に校舎の建替えに伴って実施しています。地下約3メ



大手前高等学校位置図



豊臣時代の生活面



漆器椀

一トルもの深いところから、豊臣時代の建物跡、井戸跡や道路跡などの町並みとたくさんの土坑（どこう）が発見されました。

昭和 61 年の調査では、板と杭で作られた排水溝で方形に区画された「宅地」が 6 か所確認されました。それぞれの「宅地」の中には扁平な河原石を礎石と配されています。比較的簡素な建物が多いようです。井戸は 1 基しか確認できなかったのも、共同で使用していたのかもしれませんが。

道路跡は 2 間幅で作られています。この時代の 1 間は太閤検地に見られる 6 尺 3 寸（約 191 センチメートル）を使用しています。道路の両脇には半間幅の側溝が設けられていて、護岸は板と杭で補強されています。また「宅地」から丸瓦を組み合わせた下水管が道路の側溝に流れ込むようになっています。雨水排水も考慮した「町作り」の様子がうかがえます。土坑は発掘調査の用語としては、地面に掘った穴は全て土坑といいます。その穴がお墓であれば土坑墓（どこうぼ）、ゴミ捨て穴であれば廃棄土坑ということになります。今回検出した土坑は後者のようです。屋敷地の裏庭に穴を掘って生活ゴミを埋めたのでしょう。

#### 出土品

発掘調査結果、土坑などから大量の遺物が出土しました。大半は生活用品、日常雑器や道具類あるいは廃材などで、当時の生活の様子が生々しく浮かんでくるようです。

木製品をみると柱材や板材などの建築材、生活用品としては箸や下駄が多いようです。箸は使い捨てではないにしても、大量に捨てられています。漆器の椀は、結構たくさん出土します。当時の絵図などを見ると、漆器で食事をする光景がよく描かれています。陶磁器の食器はあまり見られないので、町屋では漆



将棋の駒



瀬戸美濃系の天目茶碗



中国製の磁器（青花）

器の椀や皿が食卓に並んでいたと思われます。すこし変わったものとしては、羽子板や将棋の駒があります。将棋の駒は「角」「銀」「歩」の3枚が出土しています。形は今の将棋の駒と同じで、底辺の広い五角形をしています。豊臣時代では中将棋と小将棋があり、小将棋が現在の将棋に近いようです。当時、将棋の駒を盛んに製造、販売していた水無瀬家の注文をみると、公家は中将棋の駒を武家、

商家は小将棋の駒の注文が多いことが指摘されています。江戸時代には将棋といえば、小将棋を指すようになっていました。

先ほど、絵図などよれば陶磁器を食器にして食事をしている光景はあまり見ないと書きました。しかしゴミ穴などからの出土品には瀬戸美濃系の椀や皿が大きな割合を占めていますし、中国（明）製から輸入された磁器（青花）も多く出土します。特に瀬戸美濃系の

茶碗や天目茶碗は粗雑な作りのものが多く、大量生産されたものかもしれません。一応、茶陶として考えておきます。

最後に特筆すべき出土品として、金箔瓦があります。天正14（1586）年に始まった大坂城二の丸の工事中に訪れた宣教師ルイス・フロイスは、金色に輝くと表現しています。本丸はもとより二の丸の櫓までにも金箔瓦が葺かれていたことがわかります。近年の調査では、三の丸の大名屋敷にも金箔瓦が使用されたことがわかっています。今回の調査でも整地層の中に金箔瓦が含まれていました。豊臣家の家紋である「五三の桐」紋の金箔瓦も出土しています。

出土した金箔瓦は、大手前高等学校の上町筋沿いの植込みの中に、陶板製の遺跡案内板に写真が焼き付けられています。

是非、一度ご覧ください。



大手前高等学校の上町筋沿いの植込みの中にある遺跡案内板